ともしび

第140号
平成27年1月1日
題字は（故）黒川利雄博士

宮城県がん征圧イメージキャラクター

検診の特色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理

目　次

新春のご挨拶……2
液状化検体細胞診（LBC）の子宮頸がん検診への導入について……3
イベント報告……7
みやぎよろこびの会活動報告……11
がん総合相談・がんなんでも相談・がん検診受診券のご紹介……12
ご寄付をいただいた方々……13
「黒川利雄がん研究基金」研究助成金希望者募集・継続寄付のお願い……16

公益財団法人　宮城県対がん協会

新春のご挨拶

公益財団法人　宮城県対がん協会
会長　**久　道　　茂**

新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災以来約４年が経ちました。震災復興のために多くの国費がつぎ込まれておりますが、仮設住宅の解消、鉄道、港湾施設などの復旧工事はなかなか思うようにはいきません。建築工事関連の人材不足や建築土木資材の高騰などが響いて復旧のスピードが遅々として進まないからです。また、地域医療については、被災地の人口減、医療施設の被災、医師不足と看護師不足が続いて、医療の復旧もなかなか進まない状況が続いております。

宮城県対がん協会は、全国に先駆けて組織的ながん集団検診を開始し、以来がん予防事業を通じて、宮城県民のがん発生の予防とがん死を減少させるため寄与してまいりました。

それは、早期発見・早期治療のための精度の高いがん検診を普及し受診率を上げることで達成されます。そのがん検診受診者数ですが、震災前の平成22年度の数値から激減したものの、多くの方々の努力と協力で近年は回復に向かっております。しかし、胃がん検診と子宮頸がん検診については、震災前の数値には届かずマイナス１～３％にとどまっております。幸い、乳がん、大腸がん及び前立腺がん検診の受診者数は震災前の数を超えることが出来ました。さらに、昨年は、胃がん検診受診者延べ数が800万人を達成し、これまで約１万５千人の胃がんを発見して救命しております。受診者数が増えれば、それだけ救命者が増えるのです。

折角早期に発見してがん死を防ぐ方法があるのに、その機会に恵まれないのではもったいない話です。精度の高い検診を維持するために、がん検診センターの医師を中心に各種診断委員会の先生方や技師、保健師、病歴管理士や事務職員らが協会独自の研究費や厚生労働省などの外部研究費を得てがん予防や検診に関する研究を行っていますし、黒川利雄がん研究基金を用いて全国に公募し、若手がん研究者に対する研究助成も行っています。その他、検診受診勧奨事業、地域がん登録、検診の精度向上のための精度管理事業、がん患者のための相談事業など多くの事業を行ってまいりました。これら全て公益事業でありますが、平成24年４月から本協会が公益財団法人になったことから、さらに公益財団法人らしい事業として「がんの一次予防」と「がん対策普及啓発のための募金活動」などに一層の力を注ぎたいと考えております。

今年も、どうかよろしくお願いいたします。

液状化検体細胞診（LBC）の子宮頸がん検診への導入について

公益財団法人　宮城県対がん協会
細胞診センター所長　　田　勢　　亨

■はじめに

宮城県対がん協会では、子宮頸がん検診の不適正細胞診標本をできるだけ減らすため、2014年４月から検診車方式に液状化検体細胞診（Liquid based cytology：LBC）を導入しました。LBCは臨床現場（検診車内）で採取した細胞を専用の保存液容器に回収し細胞浮遊液として保存した後、検査室で専用の機器を用いて細胞診標本を作製する方法です。液状化検体細胞診（LBC）について説明します。

■LBCが行われるようになった歴史的背景

1987年2月と11月のウォールストリートジャーナル（ニューヨークの日刊紙）に、米国の子宮頸がん細胞診検査は見落としが多く診断精度が低いことが報道され、その後社会問題にまで発展しました。このことが契機となり、1988年12月に米国メリーランド州ベセスダにある国立衛生研究所（NIH）において、子宮頸部細胞診に関するワークショップが開催され、子宮頸部細胞診の新しい報告様式としてベセスダシステムが公表されました。さらに、子宮頸がん検診の細胞診の精度向上を図るために、細胞診とHPV（Human papillomavirus）検査の併用、子宮頸がん検診細胞診の自動化、液状化検体細胞診（LBC）の推進などの改善策が講じられました。

LBCは従来の直接塗抹細胞診（従来法）と比べ、不適正細胞診標本の減少と、診断精度の向上および合理化をめざした細胞診標本作製・診断方法です。LBCの機器は、Thin Prep（ホロジック社）、Sure Path（日本ベクトン・ディッキンソン社）、TACAS（(株）医学生物学研究所）、Cell prep（バイオダイン社）、LBCプレップ（武藤化学）などが国内で発売されています。

■液状化検体細胞診（LBC）の導入について

宮城県対がん協会では子宮頸がん検診の検診車方式にLBCの導入をめざし、2013年12月にThin Prep、Sure Path、TACASの３つにしぼりLBC機器を検討し、Thin Prep 5000プロセッサAutoLoaderを採用しました。その採用理由としては以下のことが挙げられます。Thin Prepは1996年にFDA（米国食品医薬品局）の認可を受け、すでに米国内の子宮頸部細胞診検査の70%に使われており、不適正細胞診標本の解消と子宮頸部高度病変の検出でFDAが認める実績があります。また、Thin Prepは最小人員（1人）で操作ができます。検体・スライドガラス・フィルターをセットし、スタートボタンを押せば全自動で標本作製が行われ、事前セットでの夜間無人操作も可能です。また、細胞の長期保存によりHPV検査など追加検査が可能です。

■直接塗抹細胞診（従来法）とThin Prepの子宮頸部細胞採取から標本作製までの流れ

従来法の直接塗抹細胞診は、医師がヘラまたはブラシで子宮腟部・頸管から細胞を採取してスライド

ガラスへ塗り、細胞をアルコール固定します。その後、検体を検査室に送りパパニコロウ染色をして顕微鏡による細胞診断を行ないます。従来法では、細胞をガラス上に均等に塗るのはなかなか困難で、細胞の厚い部分などの塗りムラができ、細胞と細胞が重なり合い顕微鏡での検査に時間がかかるなどの課題がありました。また、細胞採取後すぐに固定しないと標本が乾燥して染色不良となります。さらに、細胞診断をするのは採取された細胞の一部（10-20%）で、多くの細胞は診断されずに廃棄され病変を見逃す可能性があります。このように不均一細胞塗沫、空気乾燥・固定不良、細胞少数などで全ての細胞診標本を均一で適正なものにするのは困難です。以上を改善する方法として LBC が開発されました。

Thin Prep による LBC は、検体採取器具としてサーベックスブラシを推奨し、固定保存液としてプレザーブサイト液を用います。医師は子宮腟部・頸管からブラシを５回転させて細胞を採取します。採取細胞を確実にプレザーブサイト液容器の中に落とすために、ブラシを容器の底に 10 回押しつけてしっかりとすすぎます（図１）。これにより採取細胞のほぼ全量が回収され、その後 15 分以上固定し細胞浮遊液として検査室へ送られ保存されます。プレザーブサイト液の主成分はメタノールで、エタノールベースの保存液でみられる細胞の収縮傾向はあまりみられません。固定された細胞は室温で６週間保存が可能です。空気乾燥・固定不良による細胞変性を防止し、細胞の有効利用が可能です。HPV 検査などの補助的検査の追加も可能です。

図 1. 細胞採取法

細胞診標本作製は、検査室で Thin Prep 5000 プロセッサ AutoLoader を用いて行います。遠心や分注などの前処理は基本的に不要です。まず検体容器とスライドガラスとフィルターをセットします。検体容器は一度に 160 個、スライドガラスは 300 枚、フィルターは 300 個セットすることができます（図２）。そして、スタートボタンを押せば自動的に約６時間で 160 検体の細胞診標本を作製します。標本作製過程に人手は不要で、スタッフは他の業務に従事することも可能です。標本作製原理は、最初にプレザーブサイト液容器を高速で回転撹拌し細胞を分散させます。次にフィルターを用いて細胞を吸引します。フィルター膜面に細胞が吸着され、吸引圧の変化を感知して吸引が停止されます。細胞は事前に均一化されているため、フィルターで収集された細胞群は保存液中に含まれる細胞と同じ構成となります。フィルターに吸着された細胞は空気圧で押し出され、フィルターに残ることなくほぼ全てがスライドガラスに転写されます（図３）。子宮頸管細胞の集塊は、フィルターによる攪拌時に細胞集塊が断片化することもありますが、完全な単細胞になることはなく細胞集塊として充分認識できます。Thin Prep では標準化された塗沫細胞診標本作製が行われ、直径 20mm の円形標本を作ります。ガラスへの細胞塗抹は検鏡範囲が狭くなりますが、細胞収集と均一化された分布により細胞判定上の問題はありません。液状検体にすることで、塗抹不良や乾燥による不適正はほぼ 0%にすることができます。Thin Prep での異型細胞の検出率については、FDA の承認では従来法と比較して高度扁平上皮病変（HSIL）検出率が約 60%向上するとされます。

また同装置は、検体に貼付されたバーコード情報を読み取り、スライドガラスにバーコード情報を印字する機能を持っています。そのため検体とスライドガラスの識別が常に一致した状態で細胞診標本が作製され、確認作業が不要です。

図 2. ThinPrep 5000 プロセッサ AutoLoader

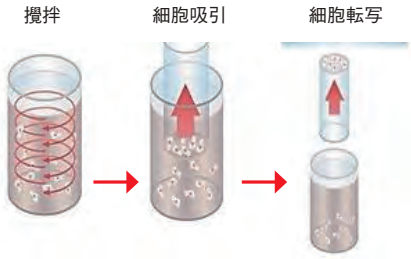

図 3. ThinPrep 標本作製原理

細胞診標本は作製後に染色ラックに順番に入れられるので、そのまま自動染色機でパパニコロウ染色をして顕微鏡による細胞診断を行ないます。ThinPrep ではスライド上の検鏡面積は 3.14cm^2 で、従来法では 12.5cm^2 であることから検鏡面積は約 1/4 になり、検鏡時間が短縮されています。細胞診背景成分はそのまま標本上に反映されます。トリコモナスや真菌も消失しません。フィルターによる転写塗抹により、従来法の平面塗抹に近い細胞像が得られます。反面、同装置での血性検体は、赤血球によりフィルターが目詰まりし、必要な細胞が充分に転写・塗沫されないことがあります。血性検体を避けるには、月経時の細胞採取は出来る限り避けるようにします。また、検体標本に細胞の抜けが生じることがありますが、その原因のほとんどは子宮頸管粘液によるものです。細胞採取時に血液や過剰な粘液がみられた場合には、ガーゼや綿棒などでできるだけ除去した後に検体を採取するようにします。血性検体による不適正細胞診標本が生じた場合には、FDA が精度を保証した溶血処理での不適正検体の対応が可能です。

■ LBC の長所と短所について

LBC の長所は不適正細胞診標本の減少と処理・診断の合理化が得られることで、LBC は検診施設に適しているといわれています。多くの検査を一つの検体で実施できるので、HPV テストを含めた遺伝子検査、免疫染色等を合せて実施する医療機関でも利点があります。高い採取細胞の回収で不適正標本を減少させ充分量の細胞検査が可能です。細胞重積がなく均一に細胞がガラスに塗沫され、血球や細菌など診断に邪魔な背景も減弱され診断が容易となります。細胞塗抹面積が小さくなり細胞診のための検鏡時間も短縮します。

LBC の短所は、標本作製に手間と時間がかかることです。機器が高価であり消耗品などランニングコストも必要となります。加えて細胞保存液を保管する場所も必要です。また、LBC の細胞像は今まで見慣れてきた直接塗抹細胞診とは異なるため、細胞の見方の再学習と慣れが必要です。ThinPrep の細胞像は従来法に比べ染色性が若干異なり、細胞質および核の染色性が淡明化する傾向があります。しかし、保存液がメタノールベースのためエタノールベースでみられる細胞の縮小はほとんど見られません。各 LBC 機器の細胞像には特徴があることから、各 LBC 機器で細胞像のトレーニングが必要になります。宮城県対がん協会で子宮頸がん細胞診に従事している細胞検査士と細胞診専門医は、ホロジック社が行なう ThinPrep の LBC 研修と試験を受けて修了証書を得ています（図４）。

図 4. HOLOGIC の Certificate 研修の修了証書

■ LBC の導入に関して

LBC では不適正細胞診標本の減少と処理・診断の合理化が得られることから、我が国でも LBC の導入を検討する施設が徐々に増えています。しかし、LBC は子宮頸部病変検出の感度や陽性的中率は従来法と同等であるとの報告もみられます。また、標本作製の手間と時間、細胞像を検鏡するトレーニング、加えて LBC 機器と消耗品などのランニング費用が必要となることから、LBC の導入がどの程度有益なのかを良く考える必要があります。国外での LBC の導入は対費用効果から HPV テストと組み合わせで検討されています。

子宮頸がん検診受診率は、欧米各国では約 70-80% であるのに対して、日本では 30% 前後に留まっています。一方、宮城県では子宮頸がん死亡率減少のため子宮頸がん検診受診率（隔年検診）の目標値を 70%以上と定めています。しかし、宮城県で子宮頸がん検診受診率が 70%以上になった場合、増加する細胞診標本の対応が可能かどうかも考える必要があります。広島県では従来法で子宮頸がん検診の対応可能な検診受診率は 40%であるとしています。LBC 機器の数を増やせば、現体制で子宮頸がん検診の受診率 70%以上に対応可能と思われます。

LBC を子宮頸がん検診現場で実施するためには、市町村の実情を考慮した検討が必要です。市町村住民検診では財源的にも受診率を上げることが容易ではありません。LBC のように従来法に比べコストが高くなる検査法については、その実情に見合った検診システムが必要です。住民台帳に基づく子宮頸がん検診台帳を作成し、それに基づく子宮頸がん検診の計画と検診未受診者の検診受診勧奨・再勧奨を徹底して行ない、子宮頸がん検診受診率の増加を図ります。LBC を用いて細胞診と HPV テスト併用検査により子宮頸がん検診の精度をあげ、かつ検診受診期間の延長を可能にして検診受診数と検診費用の適正化を行なうのが良いと思います。

今回、検診車方式における LBC の導入は、検診実施機関の宮城県対がん協会がランニング費用の負担を負うことでスタートしました。一方、開業医を含めた医療施設で行われる個別検診は各医師会が検診実施機関であるため、LBC のランニングコストをだれが負担するかを医師会・市町村・細胞診検査センターで協議して、LBC の導入を検討する必要があると思われます。

引用文献

1. 子宮頸がん検診とヒトパピローマウイルス、Questions & Answers 集、日本細胞診断学推進協会、2009
2. 久布白兼行、子宮頸部細胞診：液状検体細胞診、日産婦誌 62：194-199、2010
3. ThinPrep 細胞像アトラス～子宮頸部編～、ホロジックジャパン、2013

2014リレーフォーライフみやぎ

平成26年８月23日、24日の両日にわたり、2014リレーフォーライフみやぎが名取市庁舎前特設会場で開催されました。今回で６回目となる宮城でのリレーフォーライフでしたが快晴の開会式に始まり、ステージでは子宮頸がんのサバイバーであり歌手の松田陽子さんとスタンドフォーマザーズのパフォーマンスなどが行われ、ウォークを続けるサバイバー・ケアギバー・ボランティアを応援してくれました。

日が暮れて、ひとりひとりの想いがしるされたルミナリエの中をリレーウォークは続き、ラストには青空応援団も駆けつけてくれて、無事エンディングを迎えました。

リレーフォーライフに参加して

私は、23 日のオープニングから 20 時頃まで参加しました。学生時代は陸上部だったので、個人的な目標で、「コースを 100 周する」を実行しました（翌日は筋肉痛でしたが）。

イベント自体は正直なところ、入職して初めて知ったものでありましたが、当日参加して認識が変わりました。

舞台で子宮頸がんのサバイバーであり、シンガーソングライターの松田陽子さんが、実体験をお話しされていました。普段は検診業務をしている身である私ですが、実際に罹患され、克服された方の話を聞いたことがありませんでした。

検診に携わる者として、多少の恥ずかしさも感じたのもありますが、体験談を聞くことの重要性や、生きていることの喜び、および他人の喜びを守る喜びがある仕事をしていることに誇りも感じました。この経験を日々の検診業務に活かしていきたいと思います。

（検診課　玉木　雄大）

「がんに対して前向きに付き合っていこう」リレーフォーライフでサバイバーの方同士が再会を喜んでいる姿、がんを克服されたアーティストが一生懸命歌う姿、炎天下の中がん克服を願って歩く参加者の姿を見て私はこう感じました。私は父をがんで亡くし、家族として闘病を支えた経験があります。闘病していた時はどうしても気持ちが後ろ向きになってしまいましたが、私が見たサバイバーの方はどの方も元気に歩き、そしてがんには負けないという強い気持ちを持っていました。本やテレビではなく、実際にがんを克服された方から話を聞くことでより勇気付けられました。他にもがん克服の仕事に従事されている方も多数参加されており、目標を同じくする方々と話をすることで仕事の目標や意義も再認識することもできました。がんに対する意識を前向きに、そして再認識するためにも今後もリレーフォーライフに参加したいと思います。　（検診課　奥山　彬）

がん講演会

「がん征圧月間」期間中の９月 26 日 (金) に、「がん講演会」と「がん予防パネル展」を開催しました。会場は、青葉区の仙台市シルバーセンターで講演会には約 250 名の来場者があり、講師の東北大学災害科学国際研究所の栗山進一災害公衆衛生学分野教授が「がんの危険を減らす確実な方法とあなたに最適ながん予防法」と題して「がん」の歴史や「がん」は予防できる時代になってきたこと等わかりやすく説明をしていただきました。

がんの予防には、要因として上位を占める、喫煙・成人期の食事と肥満に注意することが特に大切。また、最近は高額な遺伝子検査によって病気のかかりやすさなど診断ができるようになってきたが、自治体などがおこなう有効性評価がはっきりしている「がん検診」を受けることが大切とのアドバイスをいただきました。

同日は、ホール前ロビーにて「がん予防パネル展」も開催し、多くの人でにぎわっていました。

また、各区役所での懸垂幕の掲示、県庁ロビーでの「がん予防パネル」の展示も行いました。

ピンクリボンスマイルウォーク仙台

乳がんの早期発見・早期治療の大切さを訴える「ピンクリボンスマイルウオーク」が10月25日(土)に仙台市で開催されました。昨年は台風の影響で残念ながら中止となってしまったので、２年ぶりの開催でした。

当日は秋晴れの下、５キロと10キロのコースに2,100人が参加し、市内を歩きながら乳がん検診の大切さをアピールしました。

イベントには、アグネス・チャンさんや舞の海秀平さんの他、地元の東北ゴールデンエンジェルス、ベガルタチアリーダーズ、仙台ベルフィーユの選手、仙台ガールズプロレスリングの皆さん、伊達武将隊の方々が駆け付け、華麗なパフォーマンスを披露していただきました。

サブイベントでは仙台市消防音楽隊の皆様の演奏があり、勾当台公園は大いに盛り上がりました。

また、午後には、アグネスさん、舞の海さん、東北大学の石田先生による乳がん検診の大切さを伝えるトークショーが開催され、参加者が熱心に耳を傾けていました。

平成27年度がん検診事業説明会並びにがん予防研修会

10月3日（金）に県内各市町村の主管課及び事業所の担当者約80名に参加いただきフォレスト仙台を会場に“がん検診事業説明会並びにがん予防研修会”を開催いたしました。

午前中の事業説明会においては、久道会長の挨拶に続き加藤事務局長による次年度の各種検診の基本方針、料金等の説明、その後、加藤勝章副所長から「胃がん検診の診断基準変更に伴う胃炎診断の増加について」という演題でピロリ菌除菌時代における胃がん検診診断について講演を行ないました。

昼食をはさんで研修会の部では受診数拡大に向けて宮城県疾病感染症対策室の大江主幹から国の事業と予算のアナウンスをしていただいた後、東北大学医学系研究科腫瘍外科准教授の石田孝宣先生による「乳がんＪ－STARTの現状と今後について」、引き続き当協会細胞診センター田勢所長による「宮城県のこれからの子宮がん検診について」と題して講演が行われ、乳がん検診・子宮がん検診に関する最新情報を共有していただきました。

胃がん検診受診800万人達成

1960年（昭和35年）に始まった当協会の胃がん検診が10月９日（木）、塩釜市で累計受診者800万人を達成いたしました。

全国に先駆けて実施した「宮城方式」と呼ばれる検診システムの節目を祝い、検診会場が記念式典会場となった塩釜ガス体育館で、久道会長より達成までの経過の報告と800万人目となった櫻井勝江さんへ記念品の贈呈が行われ、佐藤昭塩釜市長からご祝辞をいただきました。

また、担当指導医として胃がん検診を支えていただいた宮城県医師会ならびに各郡市医師会へ感謝状が贈呈されました。

式典には多くのマスコミが駆けつけこの偉業をＴＶニュース・新聞等でアピールすることが出来ました。

街頭活動委員会イベント報告

９月７日（日）午後2時から今回で７回目となるがん検診啓発行進が行われました。コースは仙台市役所前広場を出発し、一番町アーケードを南下し青葉通りまで約一時間行進いたしました。今年も「がん征圧月間」の一環として、宮城県・仙台市をはじめ、宮城県地域婦人団体連絡協議会、みやぎよろこびの会会員、またがん啓発及びがん検診の受診率向上に向けた協定を締結している企業の方々にも多数参加をいただきました。当日は天気にも恵まれ、暑い中「がん検診」の重要性を県民の方々にアピールしながら行進いたしました。

対がん協会健康まつり

11月8日（土）当協会としては十数年ぶりで「健康まつり」を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、午前9時30分より午後2時までの間、検診センター前駐車場では、キッズコーナーとして、輪投げ、水ヨーヨーすくい、スーパーボールくじなどの催し、野菜販売、サンクス出張販売、みやぎよろこびの会会員による新米のつかみ取り、さらには乳がん検診車「すみれ号」の展示などを行いました。

検診センター・事務局の中では、簡易検査（骨密度、血圧、体脂肪測定）や簡単体操、がん予防コーナー、がん相談コーナー、みやぎよろこびの会コーナー、黒川記念室見学に合わせ、スタンプラリーを行い、景品の引換をしていただきました。

また、イベントの目玉として、当協会の加藤勝章副所長による「ピロリ菌のお話」の講話を開催。その後先着50名様のピロリ菌検査も実施いたしました。

普段検診でお越しいただく方以外には、あまり馴染みのない場所というイメージですが、地域の方々にも「対がん協会はどんなことをしているところなのか」を少しでもご理解いただけるようにと企画いたしました。
当日はお陰様で約200名の方々にご来場していただきました。

市町村健康まつり

今年も県内の市町村で健康まつりが開催され、宮城県対がん協会は「がん予防コーナー」としてブース参加をさせていただきました。パネルの展示や、顕微鏡でがん細胞を覗いたり、乳がん触診模型の体験をしてもらったりと、がんの早期発見・早期治療のＰＲに努めました。

また、「しばた健康まつり２０１４」の参加については、胃がんリスク検査コーナーを設け、当協会加藤副所長が「ピロリ菌感染と胃がん検診」と題し講話をさせていただきました。

胃がんに関する正しい知識の普及や胃がん検診の受診促進につながってもらえればと思います。

実施日	会場
7月13日（日）	加 美 町　やくらい文化センター
10月11日（土）	柴 田 町　保健センター
10月18日（土） 19日（日）	大 崎 市　保健福祉プラザ
10月26日（日）	石 巻 市　遊楽館
10月26日（日）	丸 森 町　丸森中学校
11月 9日（日）	気仙沼市　健康管理センター「すこやか」
11月 9日（日）	色 麻 町　保健福祉センター
11月29日（土）	栗 原 市　ドリームパル

がん教育事業

今年度も宮城県からの委託を受け、「がん予防」について県内の小中学校への出前授業や大学等での講演会を下記の日程で実施いたします。

【小・中学校】

12/ 3	色麻町立色麻小学校	12/10	仙台市立鶴巻小学校
12/11	美里町立小牛田小学校	12/12	気仙沼市立小原木中学校
12/17	石巻市立住吉中学校	1/14	仙台市立鹿野小学校
1/20	登米市立中津山小学校	1/22	岩沼市立岩沼北中学校
1/27	登米市立米谷小学校	1/28	白石市立福岡小学校

【大学関係】

12/ 4	仙台白百合女子大学	12/18	宮城学院女子大学
1/ 8	東北福祉大学	1/13	尚絅学院大学
1/20	仙台青葉学院短期大学	3月予定	仙台保健福祉専門学校、宮城県高等看護学校

みやぎよろこびの会活動報告

ピンクリボン街頭キャンペーン

9月28日（日）仙台市一番町藤崎デパート前にてピンクリボン街頭キャンペーンが実施され、みやぎよろこびの会からも参加いたしました。

当日は仙台市、仙台白百合大学、臨床検査技師会の方々と一緒に、チラシの配布や乳がん検診の重要性をPRいたしました。

丸森支部「いも煮会」

10月11日（土）今年も丸森町不動尊公園キャンプ場を会場に、丸森支部主催の「いも煮会」が開催されました。当日は天候にも恵まれ、また土曜日とあって会場のいたるところで多くの人がいも煮を楽しんでいました。会員どうしに加え一般の方とも交流が図れました。

無料！「がんの悩みや不安を気軽に相談してください」“がん相談”のお知らせ!!

「がん総合相談」のご紹介

宮城県対がん協会のがん総合相談

宮城県対がん協会は、**医師による無料**の「がん総合相談」を行なっております。

ご家族の治療法や生活、セカンドオピニオンの受け方や患者の支え方など、ご本人やご家族のさまざまな悩み、不安、疑問などの相談に応じます。

完全予約制ですので、電話でお申込みいただき相談日を調整させていただきます。相談は面談方式で、時間はお一人様３０分までとさせていただきます。

相談は無料ですので お気軽にご予約 ください。

宮城県仙台市青葉区上杉５－７－３０
お問い合わせ・予約申込　宮城県対がん協会
022-263-1525（平日10：00～17：00）
面談日時を調整させていただきます。

「がんなんでも相談」のご紹介

宮城県がん総合支援センター

宮城県対がん協会は、**専任の看護師による無料相談**「宮城県がん総合支援センター」を設置して、面談、電話、ＦＡＸ、Ｅメールで対応しております。

○がんと診断された方の不安や問題に対して情報をさがすお手伝いをします。

○患者さんやご家族の方、医療関係者の方々、どなたでもご利用できます。

どんなお悩みでも かまいません。 一度お電話ください。

【受付】
電話022-263-1560（平日9：00～16：00）
FAX 022-263-1548
Ｅﾒｰﾙ zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

あなたの大切な方へのプレゼントに！
おトクな がん検診受診券 はいかがですか？

がんは身近な病気なのに、なかなか自分から検診に行くことが少ないのが現状です。定期的に「がん検診」を受けることで、「がんの早期発見」が可能になるのです。
大切な人をがんから守るために、料金がお得な「がん検診受診券」をプレゼントしませんか?

受診券を使ってコースで受けると約50%～20%お得です!

ご寄付をいただいた法人・個人

2014年6月1日~2014年11月30日受付分
順不同・敬称略

■篤志寄付金

村田町、センター募金、阿部洋、みやぎよろこびの会丸森支部、加藤勝章、斎藤公一、日本生命迫支店、中村令子、宮城県対がん協会街頭活動委員会、石川司之、渋谷大助

■特定維持会員

株式会社ビー・プロ、同和興業株式会社、コセキ株式会社、七十七リース株式会社、株式会社仙台銀行、東邦薬品株式会社、東京特殊車体株式会社、杜の都信用金庫、大友クリーニング店、同和警備株式会社

■賛助会員（議会）

石巻市議会議員会、大郷町議会事務局、多賀城市議会、山元町議会事務局、亘理町議会議員会、登米市議員会、七ケ浜町議会事務局、丸森町議会事務局、色麻町議会事務局、東松島市議会事務局、松島町議会事務局、涌谷町議会事務局、南三陸町議会事務局、村田町議会事務局、柴田町議会事務局、大衡村議会事務局、利府町議会事務局、美里町議会事務局、大河原町議会議員互助会、栗原市議会事務局、富谷町議会事務局、名取市議会議員会、蔵王町議会事務局

岩沼市議会：高橋孝内、大友克寿、布田恵美、酒井信幸、櫻井隆、佐藤一郎、森繁男、国井宗和、長田忠広、宍戸幸次、飯塚悦男、佐藤淳一、沼田健一

大和町議会：今野善行、浅野俊彦、千坂裕春、渡辺良雄、松浦隆夫、門間浩宇、槻田雅之、藤巻博史、松川利充、伊藤勝、平渡髙志、堀籠英雄、髙平聡雄、馬場久雄、中川久男、大崎勝治、堀籠日出子、大須賀啓

■賛助会員（法人）

株式会社銀座薬局、株式会社白松がモナカ本舗、株式会社仙台カントリークラブ、株式会社文化堂、ダスキンタカハシ㈲ＴＤＣ、株式会社ウェルネス伯養軒ケータリング営業部仙台支店、松林商事株式会社、株式会社毎日広告社仙台、株式会社ダイコクヤ、宮交自動車整備株式会社、東興産機株式会社、公益社団法人仙台市防災安全協会、株式会社三陸新報社、松田産業株式会社環境事業部仙台営業所、有限会社アツミ自動車、株式会社イメージパーク、熱海建設株式会社、株式会社三陸河北新報社、仙南信用金庫、仙建工業株式会社、第一貨物株式会社仙台東支店、常盤洋紙株式会社、宮城商事株式会社、医療法人みやぎクリニック仙台画像検診クリニック、上西産業株式会社、クレア工業株式会社、東北労働金庫、株式会社佐浦、涌谷観光株式会社、株式会社三株園茶舗、志津川オリエント工業株式会社、有限会社ふじや千舟、株式会社渡辺採種場、渥美工業株式会社仙台支店、カイリク株式会社、仙台弁護士会、株式会社シーエス・オペレーションズ、ツバキ薬局、常盤化工株式会社、東日本興業株式会社、古川商工会議所、ワタヒョウ株式会社、株式会社ヨコハマタイヤサービス東北、七十七コンピューターサービス株式会社、コヤマリネン株式会社、有限会社おでん三吉、東北総合信用保証株式会社、宮城県中小企業団体中央会、アフラック仙台総合支社、弘進ゴム株式会社、宮城石灰工業株式会社、有限会社上杉会計事務所、株式会社小山商会、白石商工会議所、武田公認会計士事務所、株式会社石井組、株式会社小田島、気仙沼商工会議所、株式会社仙台放送、あすか製薬株式会社東北支店、東北放送株式会社、東北インフォメーション・システムズ㈱、アルプス電気株式会社古川工場、日本製紙株式会社石巻工場、株式会社羽田電機工業所、出光リテール販売株式会社東北カンパニー、勝山企業株式会社、塩野義製薬株式会社仙台分室、宮城県自動車事業協同組合、奥山工業株式会社、仙台ガス保安工事株式会社、宮城中央ヤクルト販売株式会社、学校法人東北工業大学、（公社）宮城県宅地建物取引業協会、東日本メディカルシステム株式会社、株式会社佐藤製線所、株式会社ショクテン、塩釜商工会議所、株式会社西仙台ゴルフ場、株式会社リバーヴ、石巻商工会議所、東北特殊工業株式会社、株式会社藤崎、株式会社メガネの相沢、株式会社宮城テレビ放送経営推進部、仙台商工会議所、仙台和光純薬株式会社、笹氣出版印刷株式会社、カメイ株式会社、仙台空港ビル株式会社、宮城十條林産株式会社、有限会社岩沼屋ホテル、東北福祉大学、株式会社佐々直、　学校法人朴沢学園、株式会社東北プリント

■賛助会員（医師会）

仙台市医師会：北野原正高、菊地宏子、佐藤彰、町田晶子、伊藤益次、伊藤賢司、遠藤潔、鬼怒川雄久、古賀詔子、金原孝行、公益財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院、高柳義伸、名倉宏、長谷川桂子、早坂得良、堀克孝、宮田隆光、山本敏行、湯村和博、丹野恭夫、新井宣博、和田裕子、松田惠三郎、公益財団法人宮城厚生協会長町病院、佐藤信二、五十嵐裕、鬼怒川博久、内田直樹、笠井豊、五十嵐稔、下田茂、佐藤裕也、庄司眞、武山恒男、髙橋克、藤田直孝、田所慶一、山家泰、今井克忠、吉田仁秋、青沼清一、嘉数研二、医療法人岩切病院、津田克二、小松田辰郎、熊谷榮雄、高橋秀典、医療法人社団清山会いずみの杜診療所、井上重夫、佐藤弘房、千葉守、武田鐵太郎、長島道夫、迫研一、妹尾重晴、大方俊樹、作山昌則、古川加奈子、武者盛宏、馬場安彦、清水雅行、医療法人社団仙台腎泌尿器科、五十嵐章、小林守治、長池文康、長谷川純男、舟田彰、堀田髙秀、森俊彦、門間弘道、佐藤勤、相田重光、遠藤文雄、医療法人天佑大岡内科医院、佐藤玄徳、豊田隆謙、安田恒人、李茂基、井上美知子、酉抜和喜夫、東北公済病院、加納一毅、齋藤創、宮崎豊、大澤寛寿、角安雄、山田尚子、榛澤清昭、東北薬科大学病院、小野寺英朗、草野仁、佐藤茂、白根昭男、今野豊、結城道広、石田望、道又勇一、石田一彦、貝山仁、山口尚、濱田俊政、佐藤泰彦、京極士郎、北川正伸、齋藤親弘、師研也、結城隆俊、松原修二、今村幹雄、一般財団法人厚生会仙台厚生病院、一般財団法人広南会広南病院、仙台市生出診療所、荒川雅博、柿崎健二、宍戸輝彦、根本忠義、仙台逓信病院、桃野耕太郎、村口喜代、仙台赤十字病院、京極芳夫、塚本二郎、早川哲夫、井上廉、星曠夫、渡邊睦生、曽根眞一郎、及川浩助、荒井秀夫、山口正人、虎岩紘子、宮﨑敦史、阿部慎哉、洞口有成、樋渡信夫、五十嵐彰、熊谷均、庄子長武、岡村けい子、独立行政法人地域医療機能推進機構仙台南病院、三好彰、森元富造、医療法人社団脳健会仙台東脳神経外科病院

白石市医師会：浅野俊弘、梅津佳英、小松和久、塚本和彦、公立刈田綜合病院、本多三學

柴田郡医師会：太田繁興、安藤幹郎、河内三郎、みやぎ県南医療生活協同組合、大沼利行、医療法人社団北杜会船岡今野病院、国民健康保険川崎病院、山家誠、みやぎ県南中核病院、平井完史、宮上順志

角田市医師会：安藤正夫、高山敦、医療法人社団良仁会ウィメンズクリニック金上、医療法人本多友愛会仙南病院、小川俊哉

亘理郡医師会：山形成徳、三浦俊治、熊谷明

黒川郡医師会：木村克巳

大崎市医師会：櫻井正徳、大久保孝一、菊地玄、星秀二、冨樫孝、渡辺孝也、森啓之、小野寺敦、岩渕仁寿、佐藤和朗、中川公夫、近江徹廣、千葉徹、古川星陵病院、沼田功、渡辺麟也、大崎市民病院岩出山分院、大崎市民病院鹿島台分院、大崎市民病院、三浦一雄、有馬和夫、古川星陵病院分院、高橋郁朗、木幡光彰、医療法人永仁会永仁会病院

遠田郡医師会：野崎公男、涌谷町国民健康保険病院、美里町立南郷病院、佐々木和義、熱海智章、袖井文二

桃生郡医師会：藤野裕、簡野整毅、伊東正一郎、河野秀信

登米市医師会：小澤道孝、田中悟、湊敬一、遊佐不三雄、八嶋徳吉、登米市立よねやま診療所、登米市立登米市民病院、登米市立豊里病院、三浦守正

塩釜医師会：赤石病院、池野暢子、今井信行、岩井修一、氏家紘一、小野寺仁至、及川潤一、大井知教、小幡正明、金俊夫、齋恒夫、坂総合病院、塩釜医師会消化器部会、塩竈市立病院、鈴木健史、鈴木室生、関晴夫、関口淳一、仙塩利府病院、高橋晋、高橋輝兆、冨永泰之、鳥越紘二、中山大典、林義峰、平澤善久、医療法人平樹会平澤内科医院、藤野茂、藤谷浩、本間正明、松下真史、松島病院、宮城利府掖済会病院、宮田幸比古、無量井泰、山田耕道、山田憲一、渡辺広己、井筒憲司、黒澤久三、薗部太郎、鈴木ヒトミ、渡辺孝志、涌坂俊明、遠藤英敬、小片邦穂、藤原竹彦、真栄平昇、横山義正、高橋裕一、角田和彦、小鷹日出夫、鈴木隆志、佐々木泰夫、大井嗣和、（医社）加瀬クリニック、更科広記、杉山幸一

石巻市医師会：阿部洋一、相沢正俊、伊藤健一、川村尚道、小林龍夫、佐藤信男、坂井武昭、髙橋邦明、舘田治、中嶋正彦、二宮健次、箕田紳一郎、石巻診療所、田中典和、石巻赤十字病院、久門俊勝、渡邉祐、川原田博章、舛眞一、千葉淑朗、荒井啓史、佐藤純、佐藤清壽、高屋りさ、山本博尚、石塚圭一、矢吹法孝、古山元之、千葉淳

栗原市医師会：医療法人社団水天会宮城島クリニック、佐藤自伸、菊田公一、佐々木浩、渡邉泰、三浦正明、佐々木裕之、栗原市立若柳病院、栗原市病院事業栗原中央病院、佐藤尚

名取市医師会：田勢亨、佐々木晴那、守昭夫、丹野兼夫、千田元、桑島一郎、曽我内科こどもクリニック、原田雄功、小林芳江、野口哲也、金澤義彦、佐藤滋、医療法人社団洞口会名取中央クリニック、地方独立行政法人宮城県立病院機構宮城県立がんセンター

岩沼市医師会：有田大作、中川榮子、板橋隆三、青木恭規、医療法人社団みやぎ清耀会緑の里クリニック、町田幸雄、医療法人五葉会山本クリニック、医療法人社団スズキ病院

■賛助会費（農協）

JA みやぎ女性組織協議会、宮城県農村健康管理推進協議会、ＪＡ仙台、ＪＡ古川本店、宮城県農業協同組合中央会、JA 加美よつば

■みやぎよろこびの会

大塚吉雄、石川司之、安達モト子、我妻倉吉、宍戸玲子、髙橋ノブ子、髙橋孝男、板垣髙男、青柳淑子、今野美栄子、川嶋國雄、春日睦子、佐々木春子、櫻井一男、木村俊子、西條功、後藤ふじえ、加賀みさし、丹野たい子、佐藤たまを、佐々木淑子、大友キクエ、千葉昌男、菊地トク子、根元京子、滝川文子、小野寺久幸、豊浦郁子、浅井壽子、佐野壽美子、清野静子、菅野セツ子、萬里﨑吉政、小松茂、大友信子、渥美和子、狩野せきよ、庄子照子、江刺公子、伊藤寛子、大泉ちね子、佐藤美千子、佐々木新治郎、佐々木榮之丞、結城ケサヨ、林蕙

■賛助会費（宮婦連）

小斎婦人会：天野八重子

鹿島台婦人会：佐藤孝、小堤キエ子、久道カヨ子、金澤とよの、栗田正子

築館婦人会：佐々木正子、佐藤昌子、菅原英子、高橋則子、三塚紀代子、藤田経子、白鳥起代、後藤よつ子、長谷川美子、鈴木由紀子

多賀城市婦人会連合会：渡辺とめ、桜井やえ子、酒井和子、赤井つや子、松田充子、平山千秋、星繁子、庄子よし江、平山照司、鈴木絹子、白濱宣子、稲葉愛子、田母神充代、堀米喜代子、千葉三津子、大友良子、伊藤マサ子、桜井昌子、鈴木誠子、小野くに子、門田昭子、西とし子、熊谷紀子、鈴木臣子、後藤愛子、後藤みよ子、笹原うた子、菊田百合子、武中悠子、江釣子真理子、西大條新津子、阿部純子、渡辺あや子、鈴木文子

鶯沢婦人会：小野寺美重、鈴木民子、髙橋ちよ子、髙橋龍子、千葉たつ子

大和町吉田婦人会：堀籠さと子、早坂真知子、堀籠美江子

鳴子地区町内会婦人連絡協議会

新田婦人会：髙橋信子

賀美石婦人会：三浦満、千葉千恵、本多洋子

女川町婦人会：横内静子、飯塚律子、阿部とまえ、阿部苑子、須田悦子、近藤くに子、岸サワ子、平塚とみ子、阿部けい子、木村あさえ、小山栄子、高橋京子、伊藤文子、遠藤尚子、鈴木信子、東海久美子、遠藤悦子、勝又菊枝

松山婦人会：佐々木あい子、大友紀、川江礼子、小野政子、小関裕子、細川みどり、齋藤京子

大張婦人会：大槻静江

米山婦人会：小松れい子、佐々木邦子、三浦きさ子、佐藤ヒサ子、髙橋ひさよ、橋本栄子、加藤京子、水野トヨ子、高橋チヤ子

大衡婦人会：遠藤つや子、堀籠幸子、崎山イエ子

若柳婦人会：上田泰子、菅原てるよ、中島とめ子、島田登喜子、佐藤律子、長澤満喜子、阿部てつ子、石川隆子、菅原茂子、高橋八重子、菅原留子、岩渕美代子、高橋まし子、小野寺温子、高橋幸子、武田てる子、千葉智恵子、鈴木郁子、千葉和子、三浦紀和子、佐藤ゆき子

一迫婦人会：氏家あい子、菅原きよみ、曽根真子、熊谷初美、三浦一子

色麻婦人会：佐々木りえ子、佐々木やす子、斉藤都志子

豊里町婦人会：八木しみ子、大友秀子、遠藤しみ子、只野好子、芳賀芳枝

大和町鶴巣婦人会：藤倉多香、小野啓子、馬場郁子

宮崎婦人会：鈴木ちはや、石橋定子、米澤幸子
名取市婦人会連合：渡辺勝子、三浦よね子、佐藤久子、本郷セイ子、江口清子、渡辺洋子、齋藤重子、高橋志津枝、大久あき子、高橋ケサヱ、渡辺八重子、中澤直子、大友日出子、秋塲ふみ子、庄司俊子、守智恵、佐藤元恵、三浦妙子、武山みち子
丸森婦人会：上村文子
大内婦人会：森れい子、作間スエ子
柴田郡婦人会連合：佐藤トシ、竹野幸子、佐藤房子、水戸和子、遠藤勝江、八巻まし子、高橋敏子、森美子
岩沼市婦人団体連絡協議会：吉田八重子、髙橋たづよ、大村純子、小関寛子、岩間かつ江、相原好子、酒井美枝子、残間洋子、小貫英子、富沢令子、加藤ち江子、大田トモ子、櫻井よしみ、富田みや子
舘矢間婦人会：塚原るり子
遠田郡婦連：瀧川澄江、大村涼子、寺尾登茂代、御守克子、相沢孝子、菊地千恵子、岡本とよ子
塩釜市婦人会：浅野ひろ子、菅原盛子、我妻キクエ、佐々木和恵、佐藤文子、中村和子、石川とし子、三浦あい子、阿部かほる、内海みな子、小野和恵、阿部豊子、鈴木綾子、千葉栄子、鈴木禮子、田中さよ子、千葉知子、林富子、蛯原京子、岩田みち子、山野摩里子
花山婦人会：千葉ゑさ子、三浦妙子、千葉ちゑみ、菅原加津子、及川喜留子、千葉妙子、千葉初枝、千葉レイ子
栗駒婦人会：千田かつみ、菊池寿美子、菊池清子、佐藤かち子、佐藤すみ子
西小野田婦人会：三嶋文子、高嶋信子、渡辺栄
利府町婦人会：伊藤きよみ、峯岸悦子、林せつ子、貝山昭子、小畑照子、品部陵子、加藤綾子、加藤祐子、遊佐和枝、小林いく子、佐藤ちよ、渡辺悦子、千田多美子、堀越つめ子、小山田律子、板橋たみ子
志波姫婦人会：高橋かよ子、佐藤光子、相馬桂子、高橋俊子、三浦和代、三浦末枝、菅原峰子、鈴木たみ子、千葉美恵子、奈須野るり子
古川地婦連：大友富子、鈴木ゆう子、菅原末子、熊谷弘江、佐々木登貴子、岡本道子、永塚正子、西村信代、晴山たえ子、阿部みえ子、木村一枝、木村洋子、高橋輝美、佐々木之子、門脇宗子、鹿野孝子、紺野京子、高橋ますゑ、佐々木重子、我孫子妙子、三浦博子、菅原十四四、高橋せい子、佐藤とし子
大郷町大谷婦人会：高橋一子、宮本なを子
金成婦人会：千田京子、渡辺和子、菅原かつゑ、石川セイ子、石川昌子、鈴木美千代、佐藤茂子
角田市地域婦人会：鎌田三千子、森愛子、遠藤美代子、伊藤紀代子、菅原よし子、太田美也子、中畑繁子、玉手富美子、加川昭子、保志都、仙石茂子、保志とみ子
大和町宮床婦人会：浅野よし江、貝田美喜子、浅田レイ子
東松島市矢本婦人会：三浦絢子、阿部京子、相澤数子、奥田りえ子、戸田里、三浦亨子、菅原啓子、佐藤豊子、津田美枝子、佐藤多喜子、豊島敬子、五野井文子、菊地翼子、西潟寿美、浅野美枝子、田中敬子、木村久美子、木村礼子、後藤伊都子、佐藤すみ子
岩出山婦人会：渋谷のり子、奥山昭子、北村衛子、伊藤せつ子、櫻井節子、飯田延子、加藤志美江、矢内福子
七ヶ浜町婦人会：鈴木弘子、鈴木洋子、稲妻真知子、伊丹はるの、佐藤民恵
北方婦人会：鈴木洋子、東ゆき子、三浦艶子、皆川洋子、富士原抄子、伊藤成子、佐藤浪子
大塩婦人会：眞籠聖子、須田栄子、高橋沙代、桜井あや子、渥美静子
亘理町逢隈婦人会：赤間淳子
亘理町荒浜婦人会：濱野かじ子、橋本かつ子、阿部みや子、宍戸都賀子、馬場道子、橋本貞子、佐藤冨美子、宍戸ひろ子、森恵子、永浜由紀子、渡部とし子
亘理町亘理婦人会：若松捷子、佐藤キクヨ、渡辺みつ江、高橋泰子、齋藤クニ、菊地洋子、岩見富子、三戸部とし江、小野寺貞子、金澤桂子、太細日出美、戸引よし子、尾形ミエ子、相原成子、佐野みさゑ、馬場さえ子、佐藤照子、斉藤みよ、佐藤徳子
亘理町逢隈婦人会：八巻富士子、渡辺禮子、三品せつ、佐藤祐子、菱沼和子、三品美智子、猪股和子、渡辺芳、三品都代子
亘理町吉田西部婦人会：大槻かづ子、小野節子、大河原正子、松山芳子、安藤和子、大河原みつ子、玉田しげ子、安藤美重子
亘理町吉田婦人会：本間利子、齋藤かつよ、宍戸浩子、岩佐美津子、岩佐直子、千葉きよ子、丸子常代、丸子加代子、齋藤律子、齋藤桂子、丸子きみ子、森美奈子、丸子明美、小野典子、葉坂嶺子、渡辺光子、川崎カツ子
中田婦人会：三浦しん、柴田慧、佐藤頼子、五嶋敬子、佐藤千賀子、石川クニ子、堀内悦代、五嶋まさえ、佐々木カジ子、畑山信子、佐々木やゑ子、佐藤清子、三浦節子、三浦テツ子、皆川せつ子、伊藤みち子、菅原徳子、畠山輝子

■賛助会員（個人）

小山勇朗、大泉鉄之助、鈴木繁雄、石川建治、片岡秀雄、安住泰子、我妻宗夫、犬飼健郎法律事務所、猪狩惺、及川力、加藤暢郎、紺野久子、佐藤孝之助、佐伯晴郎、佐野國男、阿部利子、髙橋龍郎、田中一寿、中沢きく子、阿部はつ江、辻るみ子、加藤静夫、菊池世津、石岡卓三、橘川光男、黒川平司、佐々木勝子、菅井正治、三島卓郎、我妻幸充、加美ひさ、内海春壽、岡嶋徹、中條政吉、木村亨、髙橋正子、阿部美津江、亀山米子、安藤裕子、佐藤京子、山口正一、亀山喜美子、斎川二郎、嶺栄松、菅原傳、笹原啓子、岩田恒一、小林茂夫、澤田幸男、佐藤好子、髙橋敬一、三浦末枝、渥美ヤエ子、市川信昭、尾坂芳夫、佐々木海風、佐藤長三、渥美洋子、木村冨士、本間基文、三浦みよ子、安達三郎、越後愛子、五島さよ子、土井敏暉、亀岡直樹、坂田雄一郎、村上卓也、高橋了子、鈴木ハツヨ、志賀宣子、佐々木健次、久保田光子、稲垣晃、桜田良子、阿部せつ、小松亀一法律事務所、後藤みよ子、曽根清秀、阿部かしく、阿部信子、鈴木八郎、阿部純二、鈴木昭子、山口正彦、小野寺良子、阿部英見、丹治静、丹治嘉與子、髙橋堅固、鈴木セツ子、関口清、嶋美香、菅原雄一、斉藤多見恵、阿部美代子、佐々木博司、織田信夫、門間典子、栗和田剛、渡辺浩之、布田直樹、高橋是清、井上眞由美、湯田教恵、斎藤淳子、笠羽あさみ、村上裕一、三塚篤、泉田京子、桃井貞夫、三部哲也、高橋期子、佐藤しげみ、佐藤由紀、只野一宏、阿部洋、千坂みゆき、椎名由実

平成27年度「黒川利雄がん研究基金」
研究助成金希望者募集

この基金は、当協会の初代会長である故黒川利雄先生の遺志を継ぎ、がんの予防及び早期発見、治療に関する技術の開発等に係わる若手研究者に対し、研究助成を行うことを目的に平成元年に創設されました。
平成 26 年までに、106 人に対し 6,910 万円の助成金を交付しています。

1. 研究対象分野と応募資格

我国のがん予防および早期発見に関する技術の開発等、がん対策に係わる研究を行う 50 歳未満の個人および団体で、以下の研究分野を対象とする。

⑴がんの疫学および集団検診に関する調査・研究・開発　**⑵がんの早期発見および治療に関する調査・研究・開発**

2. 申請手続き

申請者は宮城県対がん協会の理事または、貴所属長の推薦を受けた者とする。

3. 応募件数および推薦件数

１個人・１団体または共同研究グループで１件とし、推薦件数も１人１件とする。

4. 助成金の額

助成総額は 220 万円とし、研究助成金１件あたり **100 万円**を限度とする。

5. 応募手続

応募希望者は下記宛に**ハガキ**または**ＦＡＸ**で申し込むか、当協会ホームページより**申請書類をダウンロード**の上申し込むこと。

〒 980-0011　仙台市青葉区上杉５丁目７番 30 号
公益財団法人 宮城県対がん協会　「黒川利雄がん研究基金」事務局　宛
TEL 022-263-1637　　FAX 022-263-1548　　http://www.miyagi-taigan.or.jp

6. 募集期日

【公　　募】 平成 27 年１月　【募集締切り】 平成 27 年３月末日

7. 発表交付

【発　　表】 平成 27 年５月　【交　　付】 平成 27 年６月

賛助会員(個人･法人の継続寄付)募集中

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究、がん登録管理等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については**税制上の優遇措置**を受けることができます。個人の方の場合、従来までの「所得控除方式」に加え、新たに**「税額控除方式」**も適用されることになりました。確定申告の際にどちらかを選択して控除を受けることが出来ます。

《 寄付金の種類 》

- **賛助会員寄付**　協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方
  - 個 人 会 員　　１口　1,000 円以上の寄付者（個人）
  - 法 人 会 員　　１口 10,000 円以上の寄付者（団体・法人）
  - 特定維持会員　　寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人
- **篤志寄付**　協会の活動に対する一時的な寄付金
- **黒川基金**　黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金

がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。

ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人　宮城県対がん協会　法人事業課
〒 980-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30　TEL 022-263-1637　FAX 022-263-1548
ホームページアドレス：http://www.miyagi-taigan.or.jp